

【問い合わせ先】

下田海上保安部 交通課

電話/FAX 0558-23-0145

令和 7 年 1 月 24 日

下田海上保安部

令和 6 年船舶海難・人身海難発生状況（速報値）

～下田海上保安部管内海域～

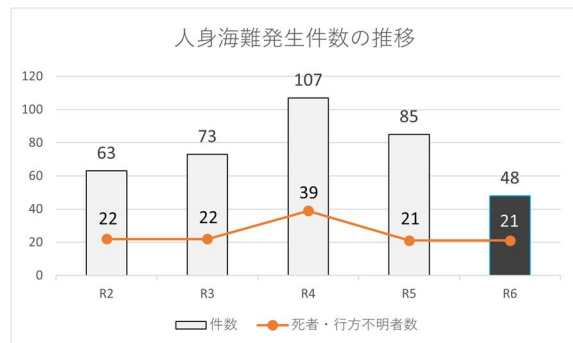
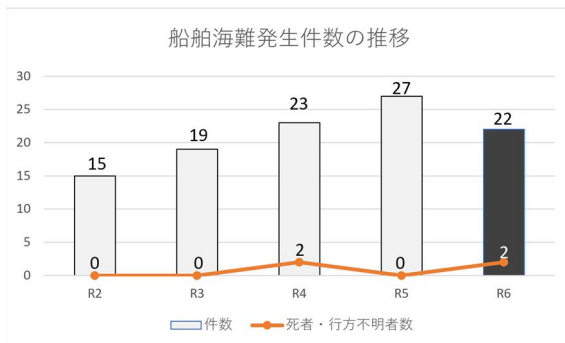
令和 6 年（1 月 1 日から 12 月 31 日まで）、下田海上保安部管内海域において発生した船舶海難及び人身海難の発生状況は以下のとおりでした。

■ 船舶海難

- ▶ 船舶海難隻数は 22 隻（前年比 5 隻減少）
- ▶ 死者・行方不明者 2 人（前年比 2 人増加）

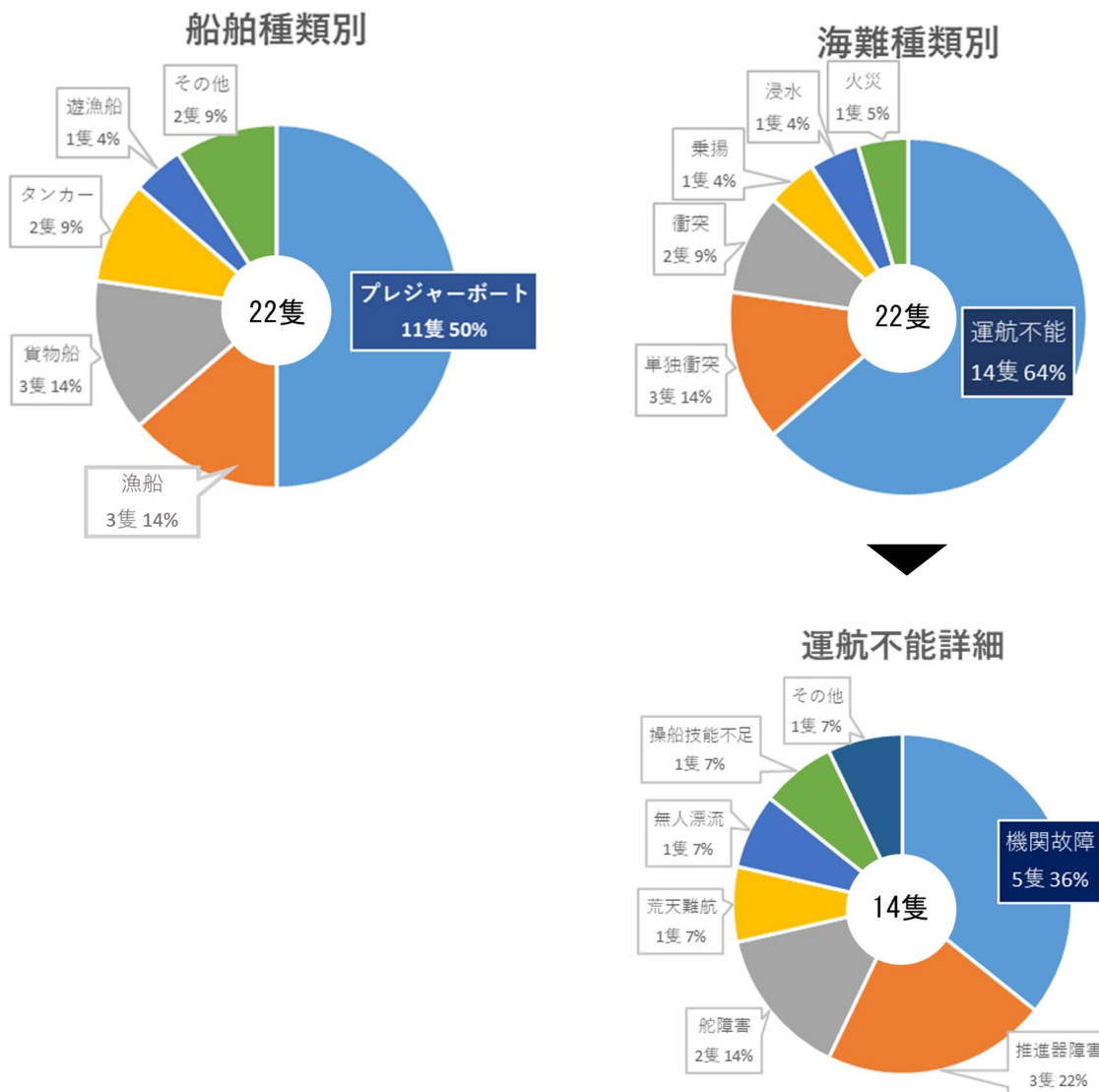
■ 人身海難

- ▶ 人身海難発生数は 48 人（前年比 37 人減少）
- ▶ 死者・行方不明者 21 人（前年比±0）



令和6年船舶海難発生状況

- プレジャーボートによる船舶海難が11隻で全体の半数を占める
- 海難種類別では運航不能が最も多く、全体の64%
- 運航不能による船舶海難のうち、機関故障によるものが36%



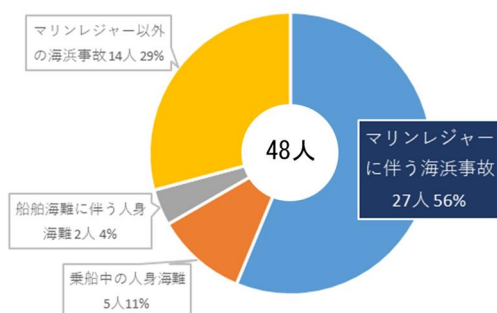
今後の取り組み

- 運航不能による船舶海難を減少させるため、船長や船舶所有者に対して発航前検査の励行と専門業者による定期的な点検整備を呼び掛けていきます。また、下田海上保安部管内において、船舶整備にかかる専門家を招聘し船舶従事者を対象とした講習会を開催し機関故障等の防止に努めます。

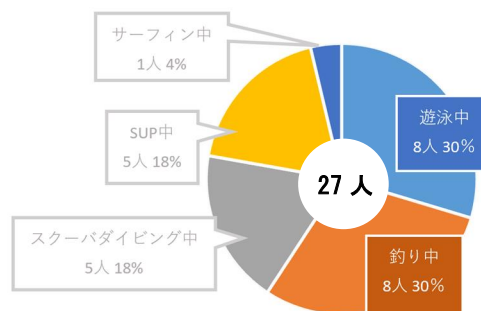
令和6年人身海難発生状況

- マリンレジャーに伴う海浜事故が27人で全体の半数以上
- 活動内容別では遊泳中及び釣り中が最も多く、各々全体の30%

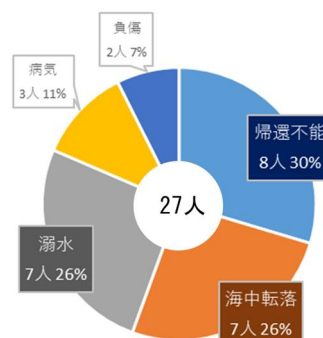
人身海難発生状況の内訳



マリンレジャーに伴う海浜事故内訳



マリンレジャーに伴う海浜事故内容別内訳



今後の取り組み

- 遊泳中による事故を防止するため、海岸管理者やライフセーバーと連携して現地安全指導を実施するとともに、若年層を対象とした海の安全教室等を開催して海水浴中における危険性や自助の精神の醸成を図るために取り組んでいきます。
- 釣り人の海中転落等による人身海難の増加を抑止するため、釣り人に対しスパイクシューズ（磯靴）の着用を啓発し、また、死亡事故を減少させるため、救命胴衣着用の励行など、直接的な安全指導をします。
- 帰還不能による事故は、SUP やサーフィン中における活動に多く発生する傾向にあるため、愛好者に対して常時天候（風向風速等）と離岸流の把握に努めるよう指導していきます。
- 死亡事故を防止するため、引き続き、救命胴衣の常時適正着用、連絡手段の確保、118番の早期通報等と呼びかけていきます。

主な船舶海難事故事例

<まぐろ漁船機関故障による乗揚死亡事故>

年月日 令和6年3月3日

場 所 東京都神津島沖

事故者 乗船者25名（60代男性死亡）

概 要 漁場向け回航中の17時頃、神津島付近海域において、機関故障により漂流状態となり、その後、神津島の北西沖に漂着したもの。乗船者25名のうち1名が波浪の影響を受け船体動揺により海中転落し、60代男性1名死亡、5名が負傷等した。

<漁船による消波ブロック単独衝突死亡事故>

年月日 令和6年3月18日

場 所 東京都三宅島

概 要 三宅島南東沖の漁場でキンメダイ漁を行うため、前泊地としていた阿古港（東京都三宅村）の前面に到着、当初、同海域には3メートル程度のうねりがあり船長は危険を感じたものの、うねりが弱くなったタイミングを見計らって進入を開始したが、船体後方から押し寄せるうねり（高さ約3メートル）を受けて同船がブローチング状態となり、船体の制御が効かず、1708頃、防波堤に沿って設置された消波ブロックに単独衝突した。衝突により、船体は前後2つに割れ、前部は消波ブロックに打ち上げられ後部は間もなく沈没した。船長は船外に脱出し消波ブロックから上陸したものの、乗子1名は船外に投げ出されて漂流し、港内海面に浮かんでいるところを当庁特殊救難隊により発見揚収、その後、救急隊により死亡が確認された。

※ブローチング状態：

船尾（船体後部）が後方から受けた大波によって持ち上がり、船首（船体前部）が傾いて制御が効かず、操船不能となる状態。転覆の危険性が増大する。

主な人身海難事故事例

<海水浴客帰還不能漂流事故>

年月日 令和6年7月8日

場所 静岡県下田市白浜大浜海岸（海水浴場開設前）

事故者 10代女性（中国籍）

概要 事故者は、午後6時頃、友人とともに海水浴場開設前となる同所において遊泳を目的として浮き輪に乗った状態で入水し、離岸風の影響を受けて帰還不能となったもの。事故発生から約36時間漂流した後、千葉県野島崎沖合にて付近を航行した貨物船により発見救助され、軽度の脱水症状のみで一時的入院した。事故者は、人生で初めての海水浴であり、海の危険性を把握せず日没間際に入水、漂流するに至ったことを主張、泳力に不安があったため浮き輪に常時掴まり救助を待っていたとのことであった。

<一発大波による海中転落事故>

年月日 令和6年11月12日

場所 静岡県伊東市八幡

事故者 50代男性

概要 釣り中、根がかかりを外そうとしてしゃがみ込み、崖下を覗いていたところ、一発大波にさらわれて、高さ約2メートルの崖上から海中に落水したもの。事故者は、自身のサンダルを浮力として救助を待ち、水難救済会所属船に無事救助された。事故者は、海水誤嚥による肺炎と軽度の低体温症のみで一時的入院となったもの。

お知らせ

■海の安全情報

海上保安庁ではWeb サイト上で、事故防止の注意事項や、気象海象の現況等の提供を行っております。

「海の安全情報」で検索し、最新の情報をご確認ください。



■ウォーターセーフティガイド

ウォーターアクティビティ（海辺でのレジャー活動）を安全に無事故でお楽しみいただくための総合情報サイトです。



■海しる

海しる（海洋状況表示システム）は、「海の今を知るため」に様々な海洋情報を集約しており、地図上で表示できる情報提供サービスです。日本の周辺海域のみならず、衛星情報を含む広域な情報を掲載するとともに、気象・海象等のリアルタイム情報も掲載しております。

